

【10月・1歳児・高月齢】

ほいくのおまもりプラス

	Aさん(高月齢/男児/活発) (2歳6カ月/4月生まれ)	Bさん(高月齢/女児/活発) (2歳5カ月/5月生まれ)	Cさん(高月齢/男児/静か) (2歳4カ月/6月生まれ)	Dさん(高月齢/女児/静か) (2歳3カ月/7月生まれ)
子どもの姿	1. 上の服を自分で着ようとするが、うまく頭や腕を出すことができずに保育者に助けを求めている。 2. 新聞・広告遊びでは、保育者のやり方を真似してダイナミックに紙を破ったり、丸めて投げることで体を動かしながら楽しんでた。 3. 登降園時に保育者が挨拶をすると、手を振って応えるだけでなく、「おはよう」「さようなら」と言葉で返すことが増えた。	1. 園庭で遊んでいる最中に尿意を感じると動きが鈍くなり、保育者に誘われてトイレに行ったり、間に合わずに漏らすことがあった。 2. 戸外ではすべり台や追いかけっこで体を動かしたり、砂場では保育者や友だちと一緒にままごとを楽しんだ。 3. 着替えの際は自分で服を選びたがり、着る前に「こっち？」と保育者に前後を確認していた。		
ねらい	1. 衣服の着脱を自分でしようとする 2. 保育者や友だちと一緒に全身を使った遊びを楽しむ	1. 尿意を感じたことを保育者に伝える 2. 戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを味わう		
内容	1. 保育者に見守られたり手伝ってもらいながら上の服を着ることに挑戦し、自分でできた達成感を味わう。 2. 保育者や友だちと関わりながら、リズム遊びやふれあい遊びを楽しむ。	1. 戸外で尿意を感じたときは自分なりの言葉やしぐさで保育者に伝え、トイレに行き排尿する。 2. ボール遊びや追いかけっこ、遊具を通して全身を使って遊ぶことを楽しむ。		
環境構成 配慮 援助	1. 上の服を着るときは、本児自身が裾を持って被りやすいように整えて置き、「頭を出すよ」「手はこのトンネルだよ」などわかりやすく伝えながら見守る。自分でやりたいという気持ちを尊重しながら、必要に応じて補助し、最後は「できたね」「着られたね」など、本児の嬉しさや達成感に寄り添い、意欲を育む。 2. 保育者も一緒に体を動かして遊ぶ中で、楽しさや面白さを言葉にして共感する。保育者や友だちに対して名前を呼びかけながら関わろうとする姿が増えてきたため、見守りながら時には言葉を補い、相手と思いが伝わり合うように援助する。	1. 戸外に出る前に排尿がなかった場合は、時間を見てトイレに誘ったり、尿意を感じている姿があれば声をかける。遊びに夢中で漏らしてしまったときは、本児の自尊心を損なわないように、職員同士で連携して素早く穏やかに対応する。 2. 怪我や事故を防ぐため、追いかけっこやボール遊びでは広いスペースを確保したり、遊具の安全な遊び方をわかりやすく伝える。保育者が一緒に楽しむことで活動に興味を持てるようにするとともに、思い切り体を動かす気持ち良さや楽しさに共感する。		
食事	・友だちの様子が気になり集中できないときは、「前を向いて食べようね」「どれが好き？」など食事に意識を戻せるような声かけをする。 ・お茶を飲んでいるときにふざけて口から出す姿があるので、落ち着いた態度で止め、「お茶はごっくん飲みましょう」などわかりやすく伝える。	・「スプーンこやうって持つの」と言って、鉛筆握りを保育者や友だちに見せてくれるので、「かっこいい持ち方ができるんだね」と本児の誇らしい気持ちを受け止める。 ・苦手な食材を避けているときは、「一口食べてみよう」「この食材、先生は大好きなんだ」など、食べてみようという意欲が湧くような声かけをする。		
家庭の連携	3. 本児が挨拶を返せない場合も無理強いせず、大人が率先して挨拶をすることで少しずつ身につけていくと伝えて、共に見守っていく。 ・朝晩と日中の気温差が激しいので、調節しやすい服装を準備してもらう。	3. 着脱しやすい衣服を準備してもらうとともに、家庭でも自ら着替えを選んだり、着脱を行おうとする姿勢を大切にもらえるようにする。 ・漏らしてしまった報告は、本児が必要以上に気にしないよう配慮してさりげなく行うとともに、大切な成長過程であることを伝えて保護者が安心できるようにする。		
評価・反省	1. 時間がかかっても自分でやるようとする姿を見守り、難しい部分はさりげなく援助した。うまくできずに怒る姿も受け止めながら、できた部分を認める声かけをして、自信につなげる。 2. ふれあい遊びを楽しむ中で、「Aさんと〇さんでおてをつなぐよ」といった提案をすることで、友だちとの関わりが生まれるようにした。好きな友だちに対してやや強引に関わろうとする際は、心地良くやり取りできるよう仲立ちする。	1. 保育者の側に来てもしもじする姿なども含め、本児なりに尿意を伝えられたときは「教えてくれたんだね、トイレに行こうね」と受け止めた。時々オムツに履き替えたがることもあるので、本児の意思を尊重して対応する。 2. ボール遊びが気に入り、追いかける、投げる、蹴るなど、保育者の動きを真似して楽しんでいた。気に入ったボールを抱えて歩くことも好きなので、多様な遊び方を認めながら楽しい気持ちに寄り添っていく。		

無料版：2名分
↓
有料版の
"おまもりプラス"
は12名分が
閲覧&DL可能！

子どもの姿の1, 2は『内容/ねらい/環境構成・配慮・援助』、3は『家庭との連携』と連動しています。

敬称と性別表記：LGBTQ+の観点から、『くん』『ちゃん』などを使わず、『さん』で統一しています。ただし、発達段階の観点では性差はあると考えられるため、男児/女児としています。